

## 農作業事故低減に向けた

# 改善活動を支援するコンテンツ

農業では就業者当たりの死亡事故発生割合が他産業と比較して大変多く、大きな問題となっています。事故を減らすためには、操作ミスなどの人的要因だけでなく、「機械・用具等」、「作業環境」、「作業・管理方法」の各側面で具体的な改善を行う必要があります。そこで、地域の農作業安全担当者や生産者自身が、現場の改善による実効性のある安全対策を実現するためのサポートツールとして、二つのコンテンツを開発しました。

### ☆ 技術の概要

1. 「対話型農作業安全研修ツール」は、農業法人等の小集団を対象として、生産現場の実態に合った改善策を考えるためのコンテンツです。研修担当者は、まず「事前調査票」で参加者のヒヤリハット経験を調べ、回答が多かったものや実際の事故事例について、「活用マニュアル」を参考に担当者と参加者で話し合いながら、具体的な現場の改善策を検討します。検討には、ヒヤリハット経験ごとに「機械・用具等」、「作業環境」、「作業・管理方法」の各側面で分類した「改善策一覧表」を活用できます。従来の一方通行型ではなく、対話を通じて参加者からも意見を出してもらうことで、実践可能で効果的な改善策の検討につなげることができます（図）。

2. 「農作業事故事例検索システム」では、事故事例を作目、事故形態、機械用具名称から検索でき、身近に起き得る事故を見つけて原因究明や改善策の検討に活用することができます。各事例の個別報告は、北海道農作業安全運動推進本部との連携による現地調査に基づいており、「人」、「機械・用具等」、「作業環境」、「作業・管理方法」の各側面での原因や改善策が参照できます。



図 コンテンツを活用した農事組合法人での研修事例  
(出典：(一社)全国農業改良普及支援協会ウェブサイト)

### ☆ 活用面での留意点

1. 研修ツールの「事前調査票」と「改善策一覧表」は表計算ファイル形式で提供しており、地域の実情を踏まえて項目を選択・追加して地域版ツールを作ることも可能です。
2. 農研機構ウェブサイト「農作業安全情報センター」(<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/>)で公開中です。詳細は同サイトからお問い合わせいただけます。  
(農研機構 農業技術革新工学研究センター 安全工学研究領域 積栄、皆川啓子、紺屋朋子)